

2日坊主と5年日記

新しい年を迎えました。あと一か月程で3年生は卒業、二か月ほどで1, 2年生は次の学年に上がります。日本の学校は4月に始まるので、3月から4月にかけてが一つの節目です。しかし、12月31日から1月1日を迎える時も何か特別な気持ちを持たずにはいられません。「今年は〇〇な年にしよう。」「今年は△△な自分になる。」といった新年の抱負を考えていると、まだやってもないのに「無敵モード」になるのは私だけでしょうか。

恥ずかしい話ですが、私は父親に「せめて三日坊主になれ。」と言われた人間で、いろんなことに興味が湧いて思い付きはいいが、とにかく継続することができない。これが私の大きな弱点でした。逆に言えば、同じことを続けるのが退屈で、不安な気持ちにすらなるとというのが私の言い訳でした。そんな私が5年前にFive Year DIARYという日記帳を買い、3週間くらいため込んで追いつくようなズルを重ねながら、昨年の12月31日、ついに5年日記を書き終えたのです！5年間というのは、中学3年生だった娘が大学1年生になるような時間でしたが、過ぎてみればあっという間でした。

私の日記にはいろんな人が登場しますが、生徒の誰かが言った面白い発言も多く収録されています。時には一日分のスペースでは書ききれず、翌日の欄に「昨日の続きなだけどさー」と、それがいかに面白かったかが熱く語られています。私が多治見高校に赴任した10年前にはALTがおらず、生徒が英語で話す機会を確保したいと常に英語で話すようになったのですが、生徒に言われた英語の記録は、いま読み返しても「上手いこと言ったね」と笑顔になります。2年目からは、スマートフォンで撮った家族の写真をシールにしたものが、日記のあちこちに散りばめられています。これは、苦手なことを続けている私の様子を見ていた娘が手作りしてプレゼントしてくれたものです。それが楽しくなって、3年目には、誰かにももらった手紙やお土産の袋、食事に行った時の割りばしの袋などを切って貼り付けるようになり日記がふっくらしました。4年目には、毎日の日記に短いタイトルをつけるようになり、最後の5年目は、タイトルではなく、漢字一文字でその日を表そうと試みました。しかし、1年間続けてみて、いかに自分を表現する漢字のレパートリーが少ないかを思い知りました。

このように、何かを続けるということにはドラマがあり、様々な気づきがあります。初めは小さなことに思えても、知らぬ間に、他のことに向かう姿勢までも変化させています。皆さんは何を続けていますか？今年のテーマは何ですか。ぜひ聞かせてください。
(文責：桑原)

♪3年の窓♪

Houston, we have a problem. (ヒューストン、こちら問題発生)

2025年、新年の幕開けです！新しい年に何か新しいことに挑戦しようとしている皆さんにご紹介したい名言があります。

1969年7月21日、人類史上初めて月面着陸を果たしたアポロ13号の宇宙飛行士ニール・アームストロングさんは月面に降り立った時、次のように言いました。

That's one small step for (a) man, one giant leap for mankind.

これは一人の人間にとっては小さな一歩だが、人類にとっては大きな飛躍である。

有名な言葉ですが、文章中の“a”をめぐって長い間論争があったのはご存知でしょうか？記録された音声では、冠詞の“a”が聞こえず、もし“a”を発音していなかったとすると、“man”だけでは「人類、男性全体」という意味になってしまうのでおかしいというものです。しかし、2006年、この論争に終止符を打つ出来事が起こりました。オーストラリアのあるプログラマーがデジタルオーディオ分析を実施し、アームストロングさんは実際に“a”と発音したにもかかわらず、当時の通信技術の限界で“a”が聞こえなかったと主張したのです。ちなみにこれを伝える記事(*)は冒頭に次のように書かれています。

That's one small word for astronaut Neil Armstrong, one giant revision for grammar sticklers everywhere.

これは宇宙飛行士ニール・アームストロングさんにとってはささいな1語だが、あらゆる所の文法に厳しい人にとっては大きな修正である。

さて、“leap”には「躍進、飛躍」という意味があります。皆さんにとって本年が飛躍する(“make a leap”)年となりますように！(ちなみに、題名の“Houston,~”は、アポロ13号とNASA宇宙センターとのやり取りをまねた有名なフレーズ)。

出典：*[CNN.com - Software finds missing 'a' in Armstrong's moon quote - Sep 30, 2006](https://www.cnn.com/2006/09/30/tech.armstrong.moon.quote)

(文責：塩原)

♪2年の窓♪

気持ちを新たに

年の初めにあって、みなさんは目標をたてましたか？私は、「後悔のない一年」を目標にこの一年を過ごそうと決意を固めたところです。去年は、私にとって多くの別れがありました。そのたびごとに「もっとこうであれば」と後悔が押し寄せました。最善を尽くしたとしても、おそらく後悔から逃れることはできないだろうとは思いますが、しかし、自分にできることを全てやり尽くしていれば、同時に納得もいくのではないかと思います。目標達成のために、以下2点について、具体的な内容を決めました。

時間は有限であるからこそ、もう一度自分自身の時間の使い方を振り返る必要があります。「忙しさを言い訳にしない」「今しかできないことがある」この2点を意識した生活を送ろうと考えています。

また、去年やり残したこと、心残りに感じていることを3つ。自分で明確にしました。その内容については、ここでは触れませんが・・・

みなさんも、ぜひ今年1年間の目標を定めてみてください。そして、目標達成へ向けての具体的な取り組みについて、考えてみてください。

3年生が、共通テストを終え、2次試験へと向かっていきます。次はあなた方の順番です。来年の今頃、どのような気持ちで迎えているのかがこの1年間にかかっています。実り多き1年になることを心から祈っています。

(文責：紀平)

♪1年の窓♪

プラグマティズムのすすめ

今年度の探究活動では、「**知の更新(アップデート)**」に必要な、問い立て、仮説、検証、修正の「探究の方法」について学んできました。現代はこれまでの知識が絶対的なものではないことが判明しつつある時代と言われており、新しい知を獲得するための柔軟性や思考力が求められています。

一つ例を挙げましょう。近年歴史学の新しい成果として注目されていることに「**モンゴル帝国の再評価**」があります。従来、「元寇」、「モンゴル人第一主義」などとモンゴル帝国に対してネガティブな評価がされてきました。しかし近年では、「交易を拡大し世界の一体化を促すことで大航海時代の先駆けとなった」というポジティブな評価が目立つようになりました。この背景には、ヨーロッパや中国中心の文明史観から生じた「モンゴル＝侵略者＝悪」とか、歴史上の国家を近代以来の基準で定義するというバイアスが見直され、このような新しい事実が発見されたと考えられます。

さて、こうした知のアップデートを支える思想として知られている哲学に「**プラグマティズム**」があります。アメリカで南北戦争後に誕生した比較的新しい現代思想で、現在混迷を極める世界中で注目を集めています。内容は、思想家により主張が多岐に分かれていて定義が難しいですが、「真理の絶対性を疑う」、「理念や理想より実践を重視する」、「協同の知」など共通する特徴があります。こうした思想家の中で皆さんにお勧めなのが、**ジョン＝デューイ**(1859-1952)です。彼は知識をあくまでも仮説としてとらえそれを実行・検証して実践的な知に導くことを主張しました。そして、未完の理念としてのデモクラシーを発展させようと、政治や教育など様々な分野で協同的で実験的な試みを提案したのです。その意味で「公共哲学」の代表的思想家・実践者とも評価されています。デモクラシーをはじめさまざまな価値が揺れ動いている今、知のアップデート・統合・実践を図るうえで、デューイを通してプラグマティズムを学んで見てはどうでしょう。

(文責：今井)